



手づくりビオトープをつくろう！！



手づくりビオトープとは

住宅の庭、軒先、ベランダや、事業所の外構、屋上等の小さくて狭いスペースでも、生きものの暮らす場所（ビオトープ）を手づくりすることができます。このような取組を文京区生物多様性地域戦略では“手づくりビオトープ”と呼んでいます。“手づくりビオトープ”は、鉢で植物を育てたり、小さな池を作ったりすることで、生きものの居場所となる空間を少しずつ作り出すことができます。“手づくりビオトープ”の一つ一つは小さくても、区内で多くの人々が取り組んでいくことで個々の“手づくりビオトープ”が繋がれば、生きものにとってより暮らしやすい環境になると考えられます。



教育センターに設置した手づくりビオトープ

手づくりビオトープのポイント

生きものによって好む環境や食べ物等が異なることから、利用してもらいたい生きもの特性に応じて、“手づくりビオトープ”の作り方を工夫することが考えられます。“手づくりビオトープ”のポイントを以下に示します。

手づくりビオトープのポイント

食べ物をつくる	休む場所をつくる	水辺をつくる
■花の蜜 ・蜜の出る花を植えることで、チョウ等が吸いに来ようになります。  クロアゲハ本生亜種	■止まり木 ・止まり木を作ると、鳥が羽を休めに来ようになります。  ヒヨドリ	■水たまり ・なるべく水を多く入れると、水温や水質の変化が少なくなり、生きものが棲み着きやすくなります。 ・水たまりではカの幼虫（ポウフラ）が発生することがありますが、ポウフラを食べるメダカを入れることで、カの発生が抑えられます。  メダカ
■実 ・果実のなる植物を植えることで、鳥等が食べに来ようになります。  メジロ	■隙間 ・石等で隙間を作ると、夜行性のヤモリ等が昼間に隠れて休んだり、越冬する生きものが寒さを凌ぐために潜り込んだりすることができます。  ニホントカゲ	■水辺の植物 ・水辺のまわりに植物を植えると、木陰ができて、夏の水温上昇を抑え、生きものにやさしい空間になります。 ・水面に接した植物等があると、トンボのヤゴが羽化して成虫になりやすくなります。  コシアキトシボ（ヤゴ）  コシアキトシボ
■バッタの食草 ・バッタが好むイネ科等の植物を植えることで、棲み着くようになります。  オンブバッタ	■日陰・木陰 ・夏の日中は暑いので、日陰や木陰があると、暑さを凌ぐことができます。 ・小さな生きものが外敵から身を守るために、日陰や木陰を利用することがあります。  ヒカゲチョウ  ヒゲジロハサミムシ	■隙間 ・ヤモリやニホンカナヘビ等は石や壁、木片等の隙間に卵を産みます。  ニホンカナヘビ
卵を産める場所をつくる ■食草 ・チョウは、幼虫の食草を匂い等で探し出して、そこに卵を産みます。	■水辺まわりの空間 ・トンボは飛びながら水の中に卵を産むので、水辺の上の空間が広いと産卵がしやすくなります。	■柔らかい土 ・バッタ等の昆虫類の多くは柔らかい土の中に卵を産みます。

手づくりビオトープにやってきやすい生きもの

- ・その地域にもともと棲んでいる
- ・長い距離を移動できる
- ・段差や道路を乗り越えられる
- ・警戒心が強くない

